

編集： 山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

2002年新春、岐阜は大雪！



いやあ参った。とんでもない大雪！ 1月2日夜から降り始めた雪はどんどん積もり、翌3日も一日中降り続いた。積雪量は40cmを越えた。庭で大はしゃぎの子供達とは裏腹に、パパは不安顔で雪かき、お爺ちゃんも余裕綽々とノーマルタイヤのままチェーン調達に奔走、ママは3日夜に約束していた旧友との食事をキャンセル… とんでもない帰省になった。こんな大雪は、自分が高校卒業して実家を離れる以前でも一度か二度しかない。

ここは岐阜県西部の池田町、豪雪で名高い関ヶ原から近い。年末年始に狙っていた私のネパール渡航が夢と消え、一時帰国に切り替えたため、元日は家族全員で岐阜にお邪魔することにした。三鷹にある美澄の実家でカローラをお借りして、12月28日に岐阜に向かった。最初のうちは天候もまずまず。でも、1月2日の夜間に車を飛ばして三鷹に帰るつもりが、その前に私が高校剣道部OB会の宴会でいい気分である間に雪は降り始め、大垣から池田町までの帰りはツルツルの路面の上でのスキー走行となった。これでは夜間走行は不可能だと諦め、翌朝まで様子を見ることに。

朝、自分の判断が甘かったことにすぐ気づいた。積雪量は既に30cm近くあり、実家の前の道路は車の轍すらない完全な雪原となっていた。雪かきを済ませ、既に営業開始していた日曜大工ショップでチェーンを購入してきたが、前輪駆動のカローラの後輪に装着して車を試走させてしまった、私は実家から150mほどしか離れていない路上で完全に立ち往生、近所の方や実家の父の助けで何とか脱出するというハプニングもあった。改めて前輪にチェーンを巻き直し、意を決して午後2時前に実家を出発した。約10km走って大垣の市街地に入ると国道の積雪もかなり融けており、後はチェーンなしでも十分走れた。しかし、今度は帰りの帰省ラッシュにもろにぶつかり、東名自動車道は静岡市の手前から断続的な渋滞。結局、三鷹に辿り着いたのは日付が変わる直前の午後11時30分過ぎだった。池田を出てから丁度10時間のドライブだった。

翌4日朝岐阜に電話を入れたところ、丁度雪かきを終えたところだったとか。3日午後実家を出ていなければ、5日の成田発のフライトにも搭乗できたかどうかわからないところだった。

2002年新春、バージニアも雪



無事にワシントンに戻って来て暫くは時差ボケとの戦いだ。子供達は夜なかなか寝付かず、朝4時には目を覚ます。そして夕方に必ず3時間近い昼寝をし、また夜になると就寝時間だというのに目が堅い。

10日ほどかかって時差ボケが解消されると、今度は千智が風邪でダウン。託児センター通園開始して3日目のことだ。そして2日後には樹生もダウン、託児センターを休んだ。2人とも、託児センターの他の子供から風邪をもらって来たようだ。激しい咳と嘔吐、そして下痢と微熱が2日ほど続く。

そして迎えた1月19日(土)、ワシントン一帯は昼前から雪が降り始め、みるみる道路も裏庭も真っ白になった。雪は1日中断続的に降り続き、5cm程度の積雪になった。風邪でダウンしていた子供達は、雪に俄然元気を取り戻し、翌20日(日)の朝は、パパを無理矢理起こし、着替えと朝食をそそくさと済ませる「良い子」に大変身した。その次に来たのは、案の定「庭で雪だるまを作ろうよ!」だった。

取りあえず日本式雪だるま(当地の雪だるまは普通雪玉を3個重ねるのだそうな)を2体作ると、次は近所のJICA戸田次長宅でのそり遊びだ。戸田邸には50m四方の裏庭があり、南から北に向けてなだらかな斜面になっている。そり遊びには絶好のロケーションである。戸田邸でそりを借りた樹生は絶好調で、親の制止も聞かずに100本近くすべった。週末の午後も一度は昼寝をするのが日課の樹生は、この日ばかりは昼寝する時間すら惜しいとばかりにそりに熱中した。「はまった」時の樹生の集中力には恐れ入るばかりだ。千智の方はさすがにそりのスピード感が怖かったようで、一度すべったら泣いて「もう嫌だ」と言って家の中に入ってしまった。

こうしてまる1日を戸田邸でお世話になったのだが、お陰で子供達はしっかりと戸田家のお嬢様方に風邪をうつし、上のお姉ちゃんの方は学校を休むはめになったそうだ。もう治ったとばかり思っていた風邪は、実は雪に気を取られていて樹生も千智もただ忘れていただけだったというわけだ。

翌21日(月)も祭日だったが、この日は快晴で気温も上昇し、折角の雪もかなり融けてしまった。都合良く週末だけ降ってくれた雪には大感謝。次はスキー場に行こうということで、さっそく家族全員がスキーウェアを揃えるためにショッピングに出かけた。

まわれ、ベイブレード!

タカラの大ヒット商品、米国上陸

年末年始に一時帰国した際、「ベイブレード」があったら何個か買って来ようと漠然と考えていた。「ベイブレード」は今風のベーゴマのことで、昔のコマのように紐を巻く手間がかからず、ペイをセットした発射シューターからをワインダーを勢い良く引き抜くことで、シューターからペイが外れて、「ベイスタジアム」の中で他のペイとカチカチぶつかり合うというゲームだ。漫画とタイアップして商品化した玩具メーカーのタカラが、これで一発当てて企業業績を大きく改善したことが週刊誌等でも紹介されている。



土産話に丁度良いと思い、トイザラスや量販ディスカウントストア等で探してみたが、どうも相当凄い人気ようで、入荷するとすぐ売り切れるため、1人の購入数を限定するといった対応も取られていた。結局見つけることができず、類似商品ということで本当に紐で回すベーゴマを2個買ってお茶を濁し、アメリカに帰って来た。

このベーゴマは、パパの世代は遊んだ経験もあり、子供に高等テクニックを披露してパパの凄いところを見せるのはうってつけだったが、残念ながら4歳半の樹生にはちょっと早過ぎた。20回に1回は回るようになったが、なかなか根気が続かない。すぐに嫌気がさしてきた樹生は、家の中に入ってしまった。

ある週末の朝、子供番組のTVチャンネルを付けると、番組の合間のCMでなんと「ベイブレード」がその名の通りで紹介されているではないか。さっそく、近くのトイザラスに直行し、ペイ3個とスタジアムを調達した。幸い、こちらでは未だ人気に火がつくところには至っておらず、売り場も非常にわかりにくいコーナーに地味に陳列されているだけだった。店員に聞かないとうっかり見落とすところだ。

樹生でも十分回すことができ、大人ばかりが一方的に勝つということもないので、パパにできることが自分にはできないと言って樹生がいじける心配もなかった。未だ千智にはちょっと早いけれど、それでも少しぐらいならペイを回すことができるし、樹生対パパ、樹生対ママの「バトル」は成立するので、家族全員で遊ぶことができる。ここでも樹生の集中力は凄まじく、夜は寝る直前までコマを回し、朝も朝食前にやり始め、出勤前のパパに「バトル」をせがむ。パパは少し辟易してきている。

最近、私は、我が家の裏にサッカーのゴールを作ったり、一時帰国の際には樹生用の剣道の竹刀やバ

ドミニトンのシャトルコック、ベーゴマを買って帰ったりと、冬でも外に出て遊ばせられるようなグッズを揃えてきた。その意図はそれなりに当たっていると思うが、今の樹生の「ベイブレード」へのはまり方を見ていると、こんな室内遊戯をずっとやらせてて本当に良いのかと、複雑な気持ちにもなる。また、日本では、親の世代が子供時代に熱中したベーゴマのリバイバルで、親子がバトルすることで普段途絶えがちな親子の会話を復活させる良い機会になっているという好意的な報道が多いようだが、オヤジの凄さを見せるには、やっぱり実際のベーゴマを狙った場所に着地させたり、手のひらで回したりする「芸術」を見せる方がいいのではないかと思う。ま、テレビアニメのビデオばかり見たり、テレビゲームに熱中するよりはまだましだろうが。

Mikio の Kindergarten 入園計画、既にスタート

今年6月で5歳になる樹生は、9月からアーリントン郡の幼稚園に通うことができる。私たちが住んでいるヴァージニア州では5歳から公立の学校プログラムが始まるためである。現在通っている「ウェストゲート託児センター」は月600ドルを超えるお金がかかるが、公立学校教育がはじまれば、これはタダになる。

4月頃になったら準備しようと暢気に構えていたが、1月最後の週末、少し気になった美澄が隣のニーナと立ち話した際、情報入手方法を尋ねた。ニーナは翌日、自宅に届いていた「タッカホー小学校」（マリーが通っていて、樹生が通うとしたらここに隣接する幼稚園になる）からの電子メールを印刷して美澄に届けてくれた。そして、そこに書かれていた情報を見て美澄は大慌てになった。なんとその日の夜に郡の認可幼稚園の説明会があるというではないか！ 美澄はすぐにオフィスの私に連絡した。できれば浩司さんが出て欲しいと頼まれ、私は夕方の来客予定をキャンセルして、早めにオフィスを出た。



説明会の会場は大盛況で、開始時間ギリギリに到着した私は先ず駐車場を探すのに苦労した。次は椅子を探すのでまた一苦労だ。広い会場で、端っこの方しか席が空いていない。そこだと郡の関係者が前で話している声がなかなか聞き取れない。一生懸命聞こうとすると、ジョークばかり交えて、やたらと話が脱線する。必要事項を伝えるだけなら20分で済む説明会が、1時間半もかかったのは、スピーカーがやたらと話の腰を折るからだと思った。結局、樹生のような外国籍児童の入園登録に何が必要かが書かれている紙と提出書類の書式一式があることを確認し、会場を後にした。

郡認可幼稚園の入園登録受付は、なんと2月1日から開始で、4月15日締切なのだそう。こんなに早く手続きがスタートするとは思ってもみなかった。必要書類の中には、結核検査も含まれていたのも、さっそくツベルクリン検査を受検するために樹生をノブ先生の診療所に連れて行った。

それにしても、持つべきものは隣人だと痛感させられた。

千智の託児センター東奔西走

1月のもう一つの大きなイベントは、千智が託児センター通いをスタートさせたことだ。樹生と同じ「ウェストゲート託児センター」に入れたかったのだが空きがなく、オムツが取れてなくても預かってくれるフォールズ・チャーチ市内の「ケイ・ケア託児センター」に当面行かせることにした。（元々託児センター（Child Care Centers）は、共働き家庭やシングル・マザー（或いはファーザー）が安心して働きに行けるように子供を長時間預かってくれる施設だから、オムツが取れていなくてもニーズは沢山ある。その一方で、オムツの交換ができるセンターは認可制なので、免許を持たないセンターではオムツを卒業していない幼児は預かることができない。樹生くらいの世代に比べて、千智の世代は需給関

係が逼迫していて、なかなか空きがない。)

初日朝、美澄が送って行って先生に預けたところでチッチーは大泣き。翌朝は私が送って行ったが、建物に入るなりチッチーは置いて行かれることを悟って泣き始めた。環境が変わって疲れたのか、翌朝体調を崩したチッチーは、水木金と3日間休むことになった。

翌週明け、私がオフィスから「カエル・コール」をしたところ、美澄が、「ちょっと千智のことで相談がある…」と意味深発言をした。帰宅して事情を聞くと、千智のクラスの先生が少し気になるという。グループの規律に厳しく、規律を乱す幼児を厳しく叱るとか。その日千智を迎えに行った美澄は、その先生から、「チサトは気に入らないことがあるとつばを吐く。他の子供が真似するといけないので、お母さんからチサトに言って欲しい。」と言われたそうだ。確かに、気に入らないことがあると千智はふくれっ面をして「ブー」とやる。それを「つば吐き (spit)」と言われたようなのだが、本当にペッとつばを吐くわけではないので、適当に聞き流しておけばいいのではないかと私は思った。勿論、ふくれっ面で「ブー」だってやってはいけないというのはその通りなので、先生に言われなくても我が家ではちゃんと指導している。先生に言われなくてもやっているのだから、そんな目くじら立てるほどの指摘ではないと私は思う。

しかし、女性の場合はそう簡単に割り切れない。元々見学に行った時からその先生の子供に対する態度が厳しく、子供に覇気が無いのが気になっていた美澄は、その時やや陰悪なムードになったことが尾を引き、どうしてもその先生が好きになれなくなった。その先生もケイ・ケアで10年も働いていて、子供への接し方にはそれなりに自信も持っておられるので、親としてはそれなりに尊重はしなければならぬし、美澄が送り迎えで一緒になった別の親にその先生のことを尋ねたら、「いい先生だ」という返事が返って来たそうだ。かく言う私自身も、多少子供を叱ってもらってもいいんじゃないかと思っている。でも、ママにしてみれば、3歳にも満たない時にいきなり日本人が誰もいないクラスに親の都合(後述)で放り込まれた娘が不憫でたまらなかつたみたいだ。確かにチッチー自身も託児センターで何して遊んだかと尋ねると口ごもってちゃんと答えられない。言葉の問題があって心細い思いをしたのかもしれない。その点は、同じクラスに日本人の子供が4人もいる樹生の場合とは大きく異なる。



その後も結局割り切って通園させることはできず、3週間でケイ・ケア通いは打ち切りとなった。代わりに通わせ始めたのは、マリさんというホーム・プロバイダで、7人の幼児を自宅で預かって下さる。ここには美澄の友人のお嬢さんも通っていて、チッチーにとっても最初から気軽に溶け込める雰囲気だったようだ。前の幼稚園とマリさんのところとどちらが楽しいかと聞かれると、チッチーは「マリ先生!」とはっきり答える。

樹生と千智を同時に託児施設に入れると、月1500ドル近い出費となる。千智をこんなに早く託児施設に入れたのは、美澄が1月末から学校通いを始めるという都合もあった。でも、樹生を見ていると、多様な人種構成のアメリカで早めに「多様性の文化」に接することで、異文化の受容度、寛容性を早めに身につけることができたような気がする。千智も残された滞米生活の中で日本人ではない子供と少しでも多く接して、世界の中で自分をとらえ、日本を冷静かつ客観的に見ることができるようになってほしいと思う。

オヤジがヒゲを伸ばす理由

一時帰国中した際、私が無精ヒゲを伸ばし放題にしていたのを見て怪訝に思われた方もいらっしゃるのではないと思う。現在在米勤務のJICA関係者やアメリカ帰りの中堅JICA職員の多くがヒゲ面であるので、何か理由があるのだろうかという疑問を持たれる方も多いただろう。

年末年始の休暇明け、世銀の職場に復帰した後も、多くの人から「本気でずっと伸ばすのか？」と随分聞かれる。そんな時、私は、「世銀玄関のセキュリティ・ゲートでいつになったら引っかかるのか試している」と冗談で言う。確かに、私の ID の写真は、ヒゲも眼鏡もない「きれいな笑顔」だ。それとは大きく風貌を変えても、今のところはセキュリティで引っかかることはない。空港で「アルカイダ」の一味と疑われたこともない。

先のアメリカ軍によるアフガン空爆の際に捕虜となったタリバン兵の中に、なんと「ジョン・ウォーカー＝リンド」というアメリカ人がいたというのでこちらで話題になっている。彼もやっぱりヒゲ面だった。さらに話が脱線するが、最近、樹生がヒゲ面のアラブ系の人を見かけると時々「あ、タリバンだ！」と口にするので困っている。テレビ報道の影響だ。特に、毎朝欠かさず見る NHK のニュースでは、オリンピックやサッカー・ワールドカップの映像は放映権の都合で報道してくれないのに、アフガン空爆開始以降、ご丁寧に連日アフガン報道を流し続けてくれている。

それで、肝心のおヒゲのわけだが、気分的なものであまり理由はない。ヒゲ面になって、剣道やっている時に強く見られないかなという密かな期待はあるが、実力を付けないと見掛け倒しなのは試合になったらすぐバレる。強いて挙げるなら、将来自分の頭が薄くなってきた際に、いっそ頭髪は短く揃えて別のところを伸ばそうと思っているので、その「Xデー」に向けての準備だということはあるかもしれない。私は 5 年前に一度丸坊主になったことがあるが、あの時は、トレッキングの際に洗髪しなくても済む便利さを理由に挙げたけれど、つい「勢い」でやってしまったというのが真実に近い。

週末になると無精ヒゲ伸ばし放題の私を見て、「それだったら伸ばしてみたら？」と言っていた美澄も、今では「もう剃ってみたら？」と言い始めている。伸ばすべきか伸ばさざるべきか、複雑な心境だ。

編集後記

- 1 月は、千智の託児センター通園に加えて、美澄が学校に通い始めるなど、家族全員が新たな生活パターンを取り入れて波乱の多かった月だと思います。美澄の通学については、いずれ本人から語ってもらおうと思いますが、傍から見ていた私としては、いきなりの週 4 日朝 9 時 15 分～14 時 15 分というのはかなり大変で、本人にとってはとても「サンチャイ通信」どころではないだろうと思いました。クラス自体は 1 月最終週からスタートでしたが、それ以前から相当のプレッシャーを感じていて、受講開始後も毎晩予習復習に時間を取られます。当面、「サンチャイ通信」でプレッシャーをかけるのも可哀想なので、今後暫くの間、編集は密かに浩司一人で進めて、最後の校正を美澄に頼むパターンで行きたいと思います。(浩司)
- 年末から年始にかけてのんびり日本で過ごしたのですが、こちらに戻って来てから私の学校が始まる約 3 週間は、子供を早く寝かしつけ、朝早く起きて効率よく家事を済ませ子供達を幼稚園に送っていく、学校に間に合うよう行動するかを考えるようにしました。家族の協力もあって、なんとかリズムが出来、遅刻しないで済んでいます。授業が始まる前はついていけるか心配で、かなり精神的にギリギリしていました。現在 4 週目に入りなんとか落第せずにやっています。こんな事情から「サンチャイ通信」を完成させるのがすっかり遅くなってしまい、話題が古くなってしまいました。7 月 30 日までは暫くこのペースが続きますが、なんとか学校を無事やり遂げたいと思っています。今回学校に通うことを許してくれ、協力してくれた浩司さんには感謝しています。暫く娯楽施設にはいけなさそうですが、講座が終了したら是非行きたいと思います。それまでは我慢ですね。(美澄)